

# 異国の地で人々と「触れあい」 自分を見つめ直すきっかけに

## 台湾で学生部セミナー

2011年度の学生部セミナーは3月4日から11日まで台湾で行われた。佐竹弘靖学生部次長(ネットワーキング情報学部教授)ほか学生16人が参加した。二行は高雄、台南、台北などの都市を訪ね、国際交流協定校の中山大学(高雄)では中国語を研修したほか、中国4000年の至宝が集まる国立故宫博物院(台北)などを訪ね、充実した8日間を過ごした。2学生から寄稿を紹介する。



▲ 台北「忠烈祠」の前で参加者のみなさん



▲ 中山大学

### 海野 彩菜 (文2)

### 学生寄稿

### 佐藤 翔 (法4)

## 語学力磨き交流深めたい

私はこのセミナーに参加してさまざまなことを学ぶことができました。海外に行くことが初めてで、語学や文化の違いなど、さまざまな面で不安を抱いていました。今回



▲ 傘づくりに励む海野さん

現地の食事は、食材や味の付けが日本のものと異なり、からいかに甘いかが多く、飲たが、

の旅行で、実際に文化や言語の違いに悩まされたことがあります。違いが特に感じられたのは、食事や買い物などで、コミュニケーションがとれる必要とされる時です。

## 文化の違いに戸惑いも

## 仲間と力合わせ意思疎通

なことから文化の違いを感じました。

様式で統一されていて、学内を移動するためにバスを使うほど敷地面積が広がった。私のクラスは円卓を少人数で囲むスタイルの部屋で、これは現地の歴史や文化を体験するために設けられた。とても有意義なセミナーでした。

## 母国と専大に誇り持った

今回の学生部セミナーですが、戦後の日本のも特に印象に残ったのが残っていたり、現在と、改めて実感しました。彼ら



▲ 写真撮影する佐藤さん

も日本語がある程度通じたので、国内旅行をしていて感覚になってしまっただけです。日本を受け入れてくれることにとても感謝しました。また、そのよう

な自分は日本人である学生は、日本に対してと、改めて実感しました。彼ら

## 大先輩・盧さんと会食

## 偉大な先人たちに感謝

は、自国の文化や歴史、政治経済など台湾の

心で、日台中の外交関係についても考えているほどでした。日本などの外国の影響を強く受け、各と食事をする機会があり、中山大學と専修大学を提携させた、まさに専にも痛感しました。



▲ 中山大学で中国語を学ぶ



▲ 伝統的な食事も楽しんだ

単なる観光旅行ではなく、貴重な経験をすることができ、とても有意義なセミナーでした。

最も印象的な出来事は、台湾茶の茶店に行きジュースチャージャーや片言の中国語などを使ってコミュニケーションをとったこと。英語は通じず、また日本語もあまり通じない。英語は通じず、また日本語もあまり通じない。

今回のセミナーで、学生同士の交流はあまり行われなかったのですが、意図疎通ができました。今回のセミナーで、学